



宮古市キャラクター  
サーモンくん(左)・みよこちゃん(右)

# 水産振興大作戦！

—「魚食」で沿岸地域を盛り上げたい—

—宮古市での魚食イベントの実施報告—

団体名:岩手大学経済研究室

発表者:岩手大学 人文社会科学部 4年 佐藤愛華

顧問:岩手大学 人文社会科学部 杭田俊之准教授

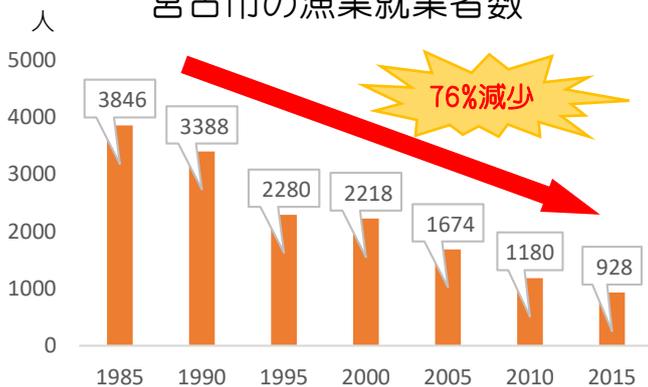
## プロジェクトの目的

本プロジェクトは宮古市内在住の子供たちに魚食体験を通じて宮古市の基幹産業である水産業に親しみを感じてもらうことである。

## 問題意識

現在、宮古市水産業は全体的に労働力の不足が続いている。それは漁業の街でありながら、幼少期から地元産の魚介類を食べることなく育った若者が多いことに起因すると考えた。そこで本プロジェクトを通じて、地元食材を食べてもらいその素晴らしさを知ってもらいたいと考えた。

### 宮古市の漁業就業者数



資料:宮古市の統計(各年)

## 実施内容・日時

■日時: 2019年9月21日(土)

■内容: 宮古市社会福祉協議会主催の子ども食堂(しおかぜキッチン)にて地元産のホタテを使用した料理を提供した。また食べながらホタテに関するクイズや食後にホタテの貝殻を利用したグッズ作成も行った。

備考: イベント以外でもボランティアとして、子ども食堂に参加しスタッフや子供達との信頼関係を深めた。

## しおかぜキッチンの概要・選定理由

■概要: しおかぜキッチンはひとり親や生活困窮者を対象に宮古市から資金援助を受け、運営がなされている子ども食堂である。

■選定理由: 子ども食堂に参加する子どもたちは日常から魚食に触れる機会が少ないことから(価格的な問題、調理や残飯処理に時間がかかるため)、こうしたイベントを通じて水産業に興味を抱いてくれる可能性が高いと考えたため。



## イベント内容の詳細(メニュー)

ホタテの炊き込みご飯



## イベント内容の詳細(グッズ制作)

貝殻アート

→ホタテの貝殻にイラストを描き、自由にデコレーションを施した。

→完成したものを、実際に耳吊り形式で飾ることで養殖現場のイメージを具体化させた。

→お土産にしてもらうことで、このイベントが思い出になることを目指した。



## イベント内容の詳細(クイズ)

ホタテの構造、泳ぐ方向、ホタテの性別、養殖方法(耳吊り)の計4問



## まとめ

魚食体験は水産業への興味を増大させるための有効な手段であることがわかった。

Ex.) 宮古市の子どもたちは学校の授業で市の魚である鮭について学ぶ。そして今回のイベントとは関係ないが、別の日で鮭のあら汁を食べときに「学びと体験」がリンクしたらしく、発表者に対して学校での授業内容を嬉々として語ってくれた。

## 反省と今後の展望

**反省:** イベント後、感想についてアンケート調査を実施しなかったため定量的に効果が測定できなかった。

**今後の展望:** 魚食を継続してもらうために、今後も子ども食堂や市内のイベントに参加していきたいと考えている。また、今回は未完に終わったが、侍マルシェ(久慈市)での魚食イベントなど宮古市だけではなく、他沿岸地域へ活動範囲を広げていきたい。

## 写真:プロジェクトの様子

